

## JAWRO 企画講演の座長をつとめて

国立病院機構 福山医療センター 放射線治療科 兼安祐子

この度、JAWRO 企画講演の座長を、中島直美先生と一緒に務めさせていただきました。安達知子先生は、1978 年東京女子医科大学ご卒業の産婦人科医で、総合母子保健センター愛育病院院長、東京女子医科大学客員教授でいらっしゃいます。今回のご講演依頼時、監事を努めておられる、日本糖尿病妊娠学会と期間が重なっていましたが、「大切だから」と、お引き受け下さり、当日は学会を途中で抜けて、駆けつけて下さいました。安達先生に深く感謝申し上げます。安達先生は日本産婦人科医会 常務理事、日本産科婦人科学会 功労会員（代議員歴 19 年、倫理委員会委員 15 年）等をはじめ文科省や厚労省など国の多数の審議会等委員を歴任されています。

私は、東京女子医大放射線科に在籍中、半年間、同大産婦人科で婦人科癌を中心に研修させていただきました。安達先生は当時、医局長をされていて、医局員の皆様を厳しく指導しておられ、私も、先生からいろいろな事を勉強させて頂き懂れておりました。仕事でご多忙な中、お二人の男児の育児中で、癌患者さんの診療で何日もご帰宅が難しい時、「子供をどうしよう..」と周囲の職員の方々に悩みを相談されておられ、ワークライフバランスに困難な時期があるというのを私は肌で感じ取ることが出来ました。講演会では、「患者さんの女性医師に対する不安、女性医師はキャリア継続が困難な時期があるが、上司はそれをみて、キャリア・アップへの支援や管理職への教育は必要ないと判断しないで欲しい。シンポジスト・座長・委員会委員等のオファーがあった時は大変だけど引き受けて欲しい、断ると後輩の女性にもオファーが来なくなる。夫は外で働き妻は家庭を守るべきという固定的性別役割分担意識にとらわれず、女性医師は常にモチベーションを高く持って欲しい」等様々なメッセージを発信され、感動致しました。最後のスライド「自分の力だけで医師になったのではなく、周囲の支えで今のキャリアがある」は、我々の使命を感じ、特に心打たれました。活発な質疑応答があり、会場の皆様の心に残る大変素晴らしいご講演でした。安達知子先生の益々のご活躍を祈念致します。また、JASTRO 学術大会長：芝本雄太先生、実行委員長：石倉聡先生、JAWRO 会長：内田伸恵先生、ご協力頂いた JAWRO の皆様に深く感謝申し上げます。